

1.8.30

別紙4(調査研究費)

調査報告書

令和元年8月30日

木津川市議会議長 山本和延 様

会派名 公明党
会派代表者 柴田はすみ
議員名 柴田はすみ・大角久典

調査期日	令和元年8月6日(火)～令和元年8月8日(木)
調査先	1 8月6日(火) 15時00分～16時00分 武雄市 ・ICTを活用した教育の取り組みについて ・官民一体型学校の取り組みについて 2 8月7日(水) 13時30分～15時00分 山口市 ・公共交通のバリアフリー化について ・地域住民主体で運行しているコミュニティタクシーについて 3 8月8日(木) 10時00分～11時30分 宇部市 ・障害者就労ワークステーションについて ・うべ元気ブランド認証制度について
参加者氏名	公明党会派(八幡市・京田辺市・木津川市合同) 視察 参加者:柴田・大角(木津川市)
調査項目等	別紙①②③

行政視察報告書

日時：令和元年 8 月 6 日

視察場所：佐賀県武雄市

視察内容：①教育改革について ICT を活用した教育の取組み
②教育改革について 官民一体型学校の取り組み

タブレット PC をすべての小中学校において活用していった活動について、新たな学校づくり推進室の諸岡室長より、説明を聞く。

行政側へ事前準備で質問内容を伝えていたため、質問に応える形で用意されており、スムーズに説明を受けることができた。

①について、平成 21 年度に総務省の取組みに手を挙げてスタートした新規事業の中身は、タブレット PC を活用して従来の指導方法の改善や効率化を目指すことを目的とすることに対して、武雄式反転授業（スマイル学習）は、学習方法や指導方法の転換を目指したもので実例として予習をする際にタブレット PC を家に持ち帰ることができ、児童が実際に使って学習をしてその内容は、事前に教師が学習内容をタブレット PC 端末のアプリに入れておくことにより、予習を行う子供たち、個々人の理解度や問題に対するつまづきが掌握ができる、その子にあった学習を見出すことができた。また、ある問題で子供たちと教える先生と差異が生じていることに気づきそこで学習方法を変えることで、より理解度が深まったとの事例の紹介があり、市長のおもいである「未来を担うすべての子供を主人公にどの子もしっかりと育てる！！」ということが、この教育改革に繋がっていることと、市長のリーダーシップで出来上がったということがわかりました。いろんな反対もあったであろうと推測しますが、市長の熱いおもいと行動に尽きたを感じました。ただ、教師によっては、タブレット PC を活用する頻度に差があるとのことでした。また、来年度の学習要綱でもあるプログラミング教育についての目的は、小学校低学年から楽しみながら教えていくことで発想力を高めることになり、いろんな可能性を秘めていると感じた。そのひとつとしての例で女の子が、テーブルに大好きなケーキがおいてあるところに父親が見張りをしている場面をどのように打開するかをプログラミングするものでした、そこでその子は、見張りをしている父親にハートのビームを発射して倒してケーキをゲットするものでした。見ている側が微笑ましく感じました。

②については、「花まる学習」は、地域との関わりを大切にされて子供たちとふれあいながら学習することに重点をおかけ子供たちが生き生きと学習をされてようを感じました。

地域の方もそれまでは、学校に行くのには、なかなか行きづらさを感じていた。

自分の子や孫が大きくなり、学校に行く機会がなくなっていたところに地域のみんなで子供たちを育てることがこれから必要であるとの認識が徐々に広まっていたとの報告でした。
①、②についても本市としては、遅れていると感じました。

別紙 ②

日時：令和元年 8月 7日

視察場所：山口県山口市 13:30～

視察内容：①公共交通バリアフリー化について

②「地域住民で運行しているコミュニティタクシー」

視察事項①「公共交通バリアフリー化について」

市民生活と都市活動を支える公共交通の確立のため、市域内での移動は、市民の日常を支える持続可能な地域交通を、街中の移動は、求心力を高め、街の活力を創出する都市交通を、広域的な移動は、交流をひろげ都市の発展を支える広域交通をコンセプトに進める。また、平成 30 年 3 月にマイカーに頼りすぎないまちづくりを目指して、「育てよう、みんなの公共交通」を基本理念とする「第二次山口市市民交通計画」を策定し、市民、交通事業者、その他関係事業者と連携し、次世代を見据えた地域公共交通網の構築を図り、持続可能な交通まちづくりの実現に取り組んでいる。

取り組内容

皆が役割をもって作り育てるという点で、市民は地域住民主体で参画、地域性にあったシステムを、事業者は、効率的で利便性の高い交通システムを、行政は情報公開と公平な機会の提供や市民や事業者の取り組みをサポート。「福祉優待バス乗車証制度の改善」や「タクシー料金助成制度の拡充」、「子育てタクシーの導入」など。

事例として低床バスの導入、ノンステップバスにするため補助ステップバスに改良。また、聴覚障害者の磁気ループ対応を車両交換時に実施。

課題

高齢者が免許返納し、路線バスの利用を進めても身体状況が、バスに乗れないのが現状で、バスのバリアフリー化だけでは対応できない。

運転士の人材不足。

視察事項②「地域住民で運行しているコミュニティタクシー」

実証運行として、1年間実施。

交通不便地域、高齢者など移動に不自由している地域。地域自ら主体となって運行に取り組む。

地域組織が事業主体となり、地域内を走行。3 年以内に基準を達成することを条件に補助で本格運行に。収支率 30 %、乗車率 30 %以上の目標だが現実は厳しく、3 年に 1 回達成すれば良しとしている。現在 7 地域で運行中。

取り組み事例

佐山地区「ふれあい号」人口 2924 人 1124 世帯。定時定路線。4 人乗りセダン。運行日は月・水・金。乗車率 44%。

課題

高齢者率は増加だが人口減少で利用者も減少。

高齢になってもマイカー運転をする。後継者、担い手不足。

課題により交通不便地域に住む交通弱者にタクシー利用権を交付し、移動負担の軽減を図る。また、一般タクシーの共同利用によりコミュニティの活性化を図る。

積極的な取り組みをされている。しかし決定的な課題解決方法は中々難しいと感じた。地域コミュニティタクシーは、徐々に全国敵に広がっているので市でも試験的に取り組むべきではと感じた。

別紙 ③

日時：8月8日

視察場所：山口県宇部市

視察場所内容：①障害者就労ワークステーションについて
②うべ元気ブランド認証制度について

①宇部市障害者就労ワークステーション

「うべ☆きらめきステーション」へ行って参りました。

宇部市は平成22年5月から市役所内に「うべ☆きらめきステーション」を設置しました。障がい者の自立促進、庁内業務の効率化、民間企業への雇用促進を目的に知的障害者、精神障害者、発達障害者を雇用しています。

ワークステーションは雇用期間が最長3年であるため、任期終了後に、民間企業等への就職へとつなげる職業準備性の向上のための支援が重要な役割となっています。

【設置目的として】①「市が率先して、具体的に、見える形で」を基本コンセプトに市役所も一事業所として障害者を積極的に雇用し、働く意欲のある障がい者の自立を促進する。

②庁内業務の効率化を図るは、同一作業が結構あるので。

③市が率先して知的障害者と精神障害者を雇用することにより民間の障害者雇用の促進を図る

雇用期間が3年間というのは1年目では社会人としての基礎的な資質を身につける期間、2年目は自己のスキルと就業イメージを高める期間、3年目は後輩の指導と現場実習を含めた就職活動を行う期間として概ね分けられています。

実績として平成29年度では知的障害…3人、精神障害…3人、発達障害…1人でした。

実際の業務は、市役所内の各課からの依頼を受けた業務を集約して事務処理をする内容でした。メンバーは、「パソコン班」と「手腕班」に分かれて作業をしています。

ワークステーションには、在籍中はフォローワー体制をとっており、市職員が支援員として配置され、日々の支援を行っていました。日々の業務日報は、支援員が、職員の仕事ぶりや人間関係、問題点を把握する重要な役割を果たしていました。

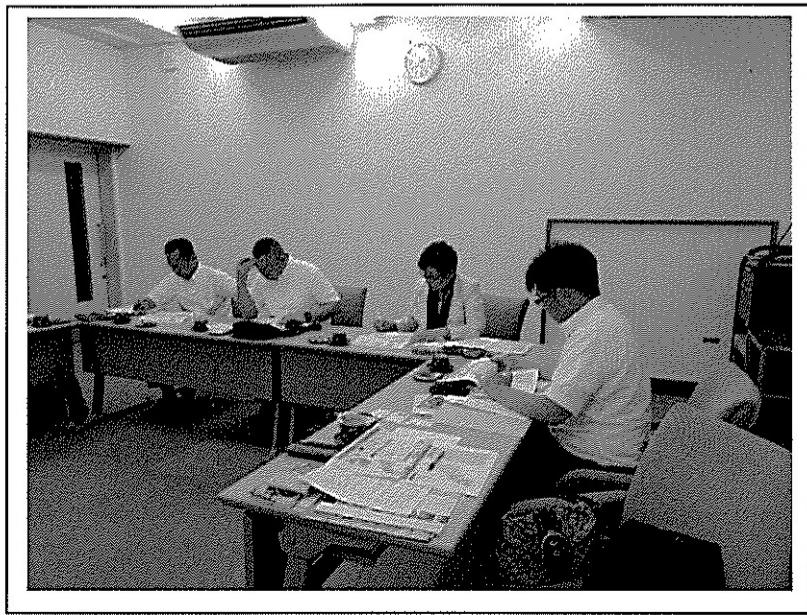
②について宇部市は、工業都市として発展してましたが、一方では、豊かな自然にあふれ、山と海の幸にも恵まれています。この特性を活かし、1次産業の活性化と農・林・漁・商・工の連携による6次産業化の促進、更には宇部市のブランド力を高めるため市内で摂取、捕獲された一次産品を使用した加工品をうべ元気ブランドに認証・育成し、販売を促進していくものでした。本市としても同様な事業の展開を考え、参考になればと下記の内容で質問をしました。宇部市の魅力が発信されているのか。年々、ブランド認証の企業は、増えているのか。回答の中でマスコミなどにも取り上げられたと聞きました。地産地消を進められました。ことなどを知ることができました。ふるさと納税の返礼品としても活用して少しでも宇部市のPRへと繋ぐ努力をされておりました。



8月6日（火）「ICTを活用した教育の取り組みについて」
「官民一体型学校の取り組みについて」



8月7日（水）「公共交通のバリアフリー化について」
「地域住民主体で運行しているコミュニティタクシーについて」



8月7日（水）「公共交通のバリアフリー化について」
「地域住民主体で運行しているコミュニティタクシーについて」



8月8日（木）「障害者就労ワークステーションについて」
「うべ元気ブランド認証制度について」